

学校名	新座市立片山小学校
実施日	令和 3年 12月 6日

＜記入の仕方＞

○「自己評価」及び「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。

○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるかを明確にしてください。

評価項目「独自」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	学校は、主体的に学ぶ児童の育成を目指し、めあてを示し見通しを持たせ、振り返りを次時に生かしている。	B	・本時で何ができるようになることが重要かを子どもたちと共通理解をしていた。めあてを明確にして授業に取り組めるように心がけている。 ・学力向上の観点から、かなり力を入れている。しかし、振り返りを生かしているかという点、生かしきれていない。 ・研修等で全学年でふり返りの視点を共有し、系統的に指導していくことでふり返りの質を上げていくといいと思う。	B	・毎時間の授業の目当てを児童と共有して授業を進めることはとても大切です。1年から6年までの学習内容、各学年の学期ごとの内容の配列は系統的に編成されており、学力の定着・向上の観点から反復学習はとても重要です。 ・主体的に学ぶ児童の育成を目指し、現在の取り組みのさらなる継続をお願いします。 ・校内研修の充実を図り、全員で指導体制を確立することを望みます。
2	学校は、児童一人一人のためにタブレットPCを活用し、個別最適な学びを進めていこうとしている。	A	・先生方の努力が素晴らしい。また、どうやって学びにするのかも良く考え、練られていて、出版できるレベルだと感じている。 ・どの学級も積極的に使っている。転入児童にもすぐにタブレットを割り当て、日々タブレットを使って学習ができる環境になっている。 ・タブレットで活用できる資料や反復練習できるようなものが少ない。今後も資料を積み重ねたり、業者を選定していくとよいと思う	A	・児童はタブレットの機能をよく理解し、積極的に楽しんで授業に活用している。新しい学習のツールとして授業に組み入れる先生方の努力に敬意を払います。とても素晴らしい取り組みだと思います。さらなる活用方法を工夫し、効率よい学習に心がけてください。 ・児童がタブレットを自由に使いこなせるようになると、新たな問題も発生しがちです。情報モラルに対する指導も引き続きお願いします。
3	学校は、児童の安全、安心のための環境作りに努めている。	B	・児童にルールを徹底させ安全、安心な学校づくりに努めた。 ・狭い校舎内で工夫がなされているが、常に開いている昇降口や門扉、駐車場を通っての下校等、学校として何かがあったときにどのように対策するのか考えていく必要があると思う。 ・危機管理マニュアルが形骸化しているため、全員が意識する取組も必要である。 ・月ごとに安全点検に取り組み、様々な教員の目で確認するなどしている。	B	・校長のリーダーシップのもと、全教職員のチームワークにより十分に努力し安全・安心な学校づくりに取り組んでいる。しかし、学校現場を舞台として、特異な事件が報道されるたびに、その難しさを改めて考えさせられます。学校は誰でも自由に入りやすい環境にあります。万が一の対応に向け、様々な危機管理マニュアルの作成、校舎内外の安全点検・各種訓練等、日々の努力を地道に積み重ねていってください。 ・学校の安全・安心への取り組みをアピールするとともに、地域との連携をさらに深め、協力し合う姿勢も大切です。

評価項目「組織運営」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は校務分掌や主任制を適切に機能させるなど、組織的な運営・責任体制を整備している。	B	・主任の先生を中心として、機能している。計画的に、分掌を行う日付を明示されるとよい。 ・主任がほとんどの仕事をしている部会が多い。部会日程を明確に設定し、誰が何の部会に所属しているのか分かりやすくしたい。 ・年度初めに分掌の中での役割分担をすること、変更があってもその都度全員に確実に共有されるような手段を考えることで、組織として動きやすくなると思う。 ・学年→分掌→職員会議で確認という流れになるように整備や意識付けができるとよい。	B	・学校は大勢の児童を預かる組織体です。教職員の組織的な活動・取り組みが何よりも大切です。運営・責任体制を整備(重点・簡素化など)し、校長を中心として、各主任・各部員一人一人の働きが適切に機能がなされないと学校運営全体に影響が出ると思います。 ・限られた時間の中で様々な活動をするには困難が伴います。どうしても一部の教員に負担が行きがちです。新たな校務分掌組織を再構築し、積極的な協力体制のもと校務分掌相互の意思の疎通・組織間の隙間を埋める努力に期待します。
5	学校は経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて、PDCAサイクルに基づく学校経営を行っている。	B	・このコロナ禍でPDCAサイクルが難しい状況ではあるが、Actionは多々行われている。(校庭全学年開放、登校時刻遅くすることをPTAに相談、下校指導など) ・校長を中心として、地域の人のとのつながりを大切にしている。 ・学校評価アンケートを生かし、PDCAサイクルで改善を図る。	A	・コロナ禍で「普通であること」がありがたいと思う日々です。様々な対応を教職員と協議し、様々な改善を図りながらの取り組みは素晴らしいと思います。 ・児童や地域が戸惑うことが無いように、細心の注意を払い、様々な工夫改善がみられました。先を急がず、地に足を付けた取り組みをさらに推進することをお願いします。
6	学校は事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	B	・定期的な避難訓練などを通して、緊急時の対応を確認した。不審者侵入の避難訓練を行いたい。 ・危機管理マニュアルは形骸化している。定期的に読み合わせができるとういと思う。 ・危機管理マニュアル等は作成されていますが、実際にそのような状況になった際に、迅速に対応できるかについて不安がある。活用するレベルまで整えたい。	B	・校内研修の充実に伴い、教職員の危機管理意識も高まってきている。各種危機管理マニュアルの見直しもされている。定期的な各種訓練を通して見えてきた課題を検証し、次の訓練に活かし、定着を図ってください。 ・学校だけでなくことには限界があります。各種災害に備え、できることは地域にも協力をお願いする等、さらなる発信を期待します。 ・現在取り組んでいる防災・減災の地域の拠点としての研究に期待します。

評価項目「学力向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、学習ルールを定め、それに基づいた授業を展開している。	B	・教科担任制によりさまざまな先生がクラスに入るので、指導の仕方やルールを学年で統一することができ、全員で共通した指導ができてよかった。 ・コロナでの生活により様々な変更(分散登校、リモート授業など)があったため、児童も混乱している。今までどおりの生活に戻していくのは時間がかかるが、根気強くどの教員も言う必要がある。 ・6学年共通の学習ルールや掲示物があるとよい。 ・学習規律や学習ルールについての講習などもあるとよい。	B	・児童が安心して学校生活・学習活動を送るためには、指導に当たる教職員が同じ指導方針のもと接することが何よりも大切です。指導の仕方・各種ルールなど学年で共通理解を得ることで、児童は真剣に、安心して授業に取り組むことができるのです。 ・学年によって違いもみられます。全児童が、混乱しないように、全学年共通のルールや規律を作成し、その意味・必要性を教師一人一人が自覚するとともに、児童にも身をもって実感させ、充実した授業環境となることを望みます。
8	学校は、各教科の指導において言語活動を重視した授業を展開し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に努めている。	B	・研修やタブレット等を活用して、全員で熱心に取り組んでいる。実生活で生かせることに取り組む機会をつくり、自分の言葉で発信する授業をしている。 ・総合・国語を中心に他教科に渡る指導されてきた。カリキュラムマネジメント環境が整っている。系統的な指導の計画は、今後も重要視することが、言語活動の充実につながる。 ・言語化ができない児童も多いので、その段階の児童に対する手立てを低学年の内から系統性をもって用意する必要がある。	B	・コロナ感染防止対策等の制限された中で、授業展開を工夫した取り組みができています。 ・自分の言葉で考えや思いをうまく発信できない児童も、他のことではできていることもある。自信をつけさせ、ほめて伸ばすことも大切です。 ・日々の研修の成果に手ごたえを感じつつ、歯がゆさも感じていると思う。同時に授業改善への課題も自覚しているので、さらなる取り組みを期待します。
9	学校は学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達の段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	B	・指導要領を参考にしながら、授業準備等をしている。さらに、子どもたちの実態に合わせた学習指導を行うことができるように改善していきたい。 ・中学年の算数で進度別学習や少人数指導にするなど改善策が必要と感じる。 ・一年間の流れだけでなく、中学の学習へつながるような指導を心がける。	A	・教育には適時性というものがあります。小学校段階に来ている児童への一番適した教育を与えなければなりません。その基準がご承知の通り学習指導要領です。各学年の発達段階を見通して、発展性、順序性、系統性が書かれています。それらを踏まえて、児童の実態を把握し、指導方針・個に応じた指導が進められています。
10	学校は、英語(外国語・外国語活動)の授業の充実するなど、グローバル化に対応できる児童生徒の育成(国際理解教育の推進)に努めている。	B	・4～6年は、専科にしているため、教材研究やEETと打ち合わせもでき、充実している。 ・児童たちは楽しく活動できているが、低学年は月に1回のため、9割以上のグローバルに対応できる児童の育成とはいえない。 ・海外の人と交流する機会を設け、英語が使えると楽しいと感じるような経験ができるようになるとうい。	A	・高学年は専科としての授業となり、教材研究・EETとの連携など様々な工夫を取り入れ、充実してきている。 ・指導法の工夫により、児童の関心を高め、充実した活動になっている。 ・英会話教育で身に着けた下地をいかし、児童は楽しんで学習に取り組んでいる。限られた時間の中で、より英会話に親しむ環境整備にさらに努めてほしい。

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、「です、ます」をつけるなど、場に応じた言葉遣いができるよう指導している。	B	・学校内での挨拶などは徹底されているが、学校外の挨拶に課題が残る。委員会活動等で改善の必要を感じる。 ・指導はしているが実態として全員で継続した粘り強い指導が必要。配慮を要する児童には十分に指導出来ない実態もあると感じる。 ・コロナ禍で声を発しない挨拶もできると児童も学んではいけるが、適した大きさの挨拶もできない児童も見られる。現状にあった指導を引き続き行う。	A	・全教職員の丁寧な指導により、学校内での挨拶については徹底されてきている。 ・郊外での挨拶に課題が残るようであるが、町内のパトロールをしている者によると、「進んでではないが言葉が返ってきている。とてもうれしい瞬間である。」とのこと。 ・手本となる学校職員の方々とはとても努力している。しかし、学校の指導だけでは限界があります。 ・地域が手本となり、場に応じた言葉と態度が身に付けられるようにともに協力した取り組みを望みます。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さを認め合えて学校生活を送れるような環境を整備している。	B	・環境整備は十分にできている。今後はタブレットやインターネット上での対策がもっと必要である。 ・できないことを指導するより、できることを認めている指導をしている教師が多い。 ・学級会や特別活動を充実させて児童が学校をさらに運営していけるようなシステムを作ることができる。	B	・児童・保護者のアンケートを見ると「私は学校で楽しく過ごしている。子供は楽しく学校に通っている。」という項目の評価が高い。問題行動を見逃さずに早急に対策を講じているからだと思う。しかし、悩みを抱え、声に出せない児童もいます。良いところを沢山見つけ、お互いに良さを認め合える環境づくりをお願いします。教師の見えないところで、いつ何が起きるかわかりません。現状に安心することなく、最新の注意を払って引き続きご指導ください。
13	学校は教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規律意識を高める指導を行っている。	B	・教師自身がルールを守り、児童の見本になる行動を行っている。 ・ルールや指導内容を明確化して、学校・地域・家庭が三位一体となって指導できるように、学校から発信する必要性を感じる。	A	・教室や廊下・階段に至るまで様々な掲示物の工夫がみられた。校内の清掃も行き届き、清潔さを感じます。落ちていたゴミに気づき、さりげなく拾った先生を見かけました。このような行為が広がるとよいですね、これからも、地域・保護者の力を借りながら、お互いに範を示しつつ推進していくことを望みます。

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	B	・緊急事態宣言中は外遊びも制限せざるをえず、今年度は難しかったと思う ・体育カードや縄跳びカード、鉄棒カードなど、学校で統一したものがあると、子供たちが何を練習すればいいのかが明確だと思う。また、一生懸命取り組み、日頃の取組が表彰されるような機会を設定したい。	B	・コロナ禍における様々な活動制限により、十分な成果を上げることは困難であった。このような状況下だからこそ、基本的な体力づくりの必要性や体を動かす楽しさを工夫を凝らして取り組めるようにすることが大切。様々なチャレンジシート(体育カード・鉄棒カード・縄跳びカードなど)を作成し、学校に限らず自宅でも取り組めるようにしてはどうだろうか。今後とも、活動時間・活動内容等の工夫を凝らし、継続して実施できる取り組みを望みます。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	B	・給食だよりや献立のメニューに地産地消、海外のメニューなどの工夫があった。さらに、給食時に放送で解説をするなど、児童にも伝わると思う。 ・SDGsと関連させ、1日の残食量や食材の量を紹介する等、何故このメニューなのか放送で話したり、給食作成の様子をリモート中継をしたりして、もっと給食について考えさせていきたい。	A	・食の安全に配慮し、栄養バランスを考えて工夫された給食が提供されている。自校給食の良さを生かし、地産地消・メニューの多様化等の工夫もみられる。何よりも児童が日々の給食を美味しく感じ、楽しみにしていることがよい。 ・学校・保護者・地域ぐるみの食育・健康教育をさらに充実発展させるためにも、日々の給食に関する情報提供にさらなる工夫を期待します。

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	B	・校長先生を中心として、地域の人との交流を図ろうとしており、地域の人から寄せられた情報を校内放送をすることで共有している。 ・児童に継続して指導していくのはもちろんだが、もっとうまく地域の心配の言葉を適切に対処していきたい。	A	・学校に寄せられた具体的な要望や意見は様々で、対処するまでに時間を要することもある。しかし、校長を中心として、地域住民と積極的に交流を図る努力をしている。寄せられた意見や要望について全教職員で共有し、それぞれの立場で学校の方針や活動の意図を説明し、総合理解を深める努力もしている。内容によっては協議会へも積極的に投げかけ、協力して取り組むことも大切です。
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	A	・学校だよりやホームページで子どもたちの様子などを保護者や地域の人たちに知らせている。 ・学校の取り組みを発信し、教育活動によくご理解をいただいていると思う。	A	・学校だよりやホームページ等で、教育活動について具体的にその詳細な様子を提供している。これら工夫された情報発信のおかげで理解が得られていると思う。なかでも片山っ子日記はおもしろく評判も良いです。現在、学校で取り組んでいるSDGsについても具体的に地域への発信をお願いします。
18	学校は、学校応援団組織を活性化させるとともに、保護者や地域と連携して声かけ運動、美化活動、不審者対策など、計画的に実施している。	B	・保護者による読み聞かせや、花壇の花植などを行っていただいている。 ・教員とPTAとの交流の場面がもっと増やしたい。地域や家庭と連携を図るためにはお互いのことをより知る必要があると思う。 ・交流の機会を増やせば、より綿密な連携や教育活動への協力をしていただけるようになると思う。	B	・学校だよりやホームページ等で、教育活動について具体的にその詳細な様子を提供している。地域住民が学校の様子を理解するのに大いに役立っている。コロナ禍の現状では難しいと思うが、校内外の学校応援団の活動と情報交換・交流の場が、より多く設けられるとよい。地域住民は、自分たちのできる範囲で、学校への手助けを望んでいます。学校からどんどん働きかけてください。